

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200938		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	四郷グループホーム(ばら)		
所在地	三重県四日市市西日野町小溝野4014		
自己評価作成日	平成23年7月18日	評価結果市町提出日	平成23年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470200938&SCD=320&PCD=24>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 23 年 8 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りに緑が多く、春になると桜の花が沢山咲く静かな環境にあります。地域の在宅介護支援センター、デイサービス、ヘルパーステーション、訪問看護ステーション、サテライト特養が併設され色々な面で協力してもらっています。ケアの面では一人一人の特徴を掴み、その方に合ったケアを行うことで沢山の笑顔を引き出すようにしています。又散歩、外気浴と外に出る機会を沢山持ったり、アクティビティー活動にも力を入れ楽しくすごせるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

在宅介護支援センター、デイサービス、サテライト特養等と併設された「青山里会」のグループホームであり、利用者は安心できる環境にある。グループホームの行事はサテライト特養との合同開催による交流も盛んで、アクティブなイベントが実施されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を(一人一人を尊重し笑顔あふれる家)とし、折りあるごとに理念に含まれる小さな事についても話あって共有している。	「その人らしい生活をしてほしい」を原点に、一人ひとりを尊重し笑顔で支援する事を、職員が共有して日常の支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には地域住民のかたへの挨拶を大切にしたり、近くの施設のたんぼぼとの交流があり、散歩の途中に寄られたり音楽療法に参加いただいている。	地区の自治会には入っていないが、利用者の自宅の自治会行事にそれぞれ利用者が参加している。近くの養護学校(たんぼぼ)との交流もあり、地域の方とは散歩の時に挨拶し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470200938&SCD=320&PCD=24	近くの中学校の職業体験を受け入れる事で、生徒さんに認知症についての理解と支援の方法を知ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子、行事、事故報告等を行い、参加者からの質問・意見又ホームからの協力をお願いしている。	二ヶ月毎に開催されているが、包括支援センターと利用者及び家族だけの参加者である。尚、今月からサテライト特養との共同開催で、市や自治会、民生委員等の参加が予定されている。	地域の理解と支援を得る為にも、事業所の応援者として自治会や市の参加による開催を継続して実施し、サービスの向上に活かされる事が望まれる。サテライト特養との共同開催による運営委員会に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接連携はとれていないが、緊急情報・研修の案内又分からない事があれば電話できている。	市の高齢福祉課とは利用者や家族との問題が生じた時や、市の主催する研修会等の情報を得て連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな事が拘束になるのか常に話をし、しないケアを行っている。玄関の施錠については開錠時間を長くするようにしている。	マニュアルに基づく研修で、身体拘束しないケアの意志統一がされている。玄関は二つのユニット共に時間を決めて、職員の手薄な時間に限定して施錠しているが、施錠時間の短縮に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どんな事が虐待になるのか常に話をしケアを行っている。利用者の様子観察を行い連絡を密にして異常の発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている利用者がみえることから制度について学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約書を渡しよく読んでもらい、契約時の説明の際に分からない箇所や不安な所について、質問頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているがいままで利用がない。家族の方には直接に困られていることはないのか、意見はないかを来られた折に聞くようにしている。	二ヶ月毎に「四郷グループホームだより」を発行して近況をお知らせし、随時には利用者の写真を載せた状況報告を送っている。家族の来所時には、利用者毎の部屋担当が主体となって意見を聴いたりして、情報交換を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や日常的にも積極的に意見を出してもらい、その意見を責任者に伝えている。	職員のスキルアップの為の研修が年間計画の基に実施され、補助制度もある。職員との意見交換は毎朝ミーティングにより、引継ぎ事項を中心に実施されているが、運営に関する意見交換を行うケア会議の実施は確認出来なかった。	利用者毎のケアに関する事だけでなく、事業所の日常の運営等についても意見交換したり、管理者としての意志浸透の為に、定期的なケア会議の開催が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	度々責任者がグループホームに来て職員の話しを聞いて把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修が毎月のように行われており参加は自由であるがほとんどの職員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り合った同業者の方に、ケアのあり方職場でのあり方について、積極的に話しかけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査で本人の思いや状態の把握をし、利用者によってはお試しショートから使ってもらい、不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や実態調査で家族が今まででしてみえた苦労等を共感もって聞き、安心してなんでも話してもらえるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方のケアマネさんと連携をとることで、その方に合ったサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は嫁であり、娘ときには友人として接し、一緒に洗濯干し、掃除、料理等をしてそのなかで多くの事を学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来て散髪や食事介助をして頂いたり、家族と旅行に出かけられたりと利用者と共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月三分の一は自宅に外泊される方、家族と共に生家に行かれる方があり外出・外泊を進めている。	利用者の知人が来所される時もあり、家族と共に美容院や馴染みの店に買い物に出かける事が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く暮らせるようリビングの席を考えたり、話の成り行きを見守り時には介入して話が上手くいくよう気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所されても様子を伺いに行ったり、行事に来てもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所されるまでの生活をよく知り、家族と共に環境を整えたり、なじみの仲になることで希望、意向も言ってもらえるようにしている。	主に部屋担当者が寄り添いながら希望や意向を聴きながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族さんに本人の生活暦を書いてもらっている。実態調査では、ケアマネさんやサービス利用時のスタッフからも話をきくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の体調・様子を個人記録に記録し、毎朝日勤者が話し合いをもち状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は利用者の希望・家族の意向をよく聞きスタッフの情報も得て本人本位のプランになるよう作成している。	ケアプランの作成は部屋担当者が利用者の状況や家族の意向を聴きながら作成し、支援内容に基づくモニタリングを行い、三ヶ月毎に見直しが行われている。尚、家族には内容を説明してサインを受けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に一日の様子を書きスタッフ皆が読んで話あっている。食事摂取・排便・バイタルの必要な方は毎日記録して介護計画にやくだっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のみえない方は近くのスーパー・ドラッグと一緒に買い物に行ったり、美容院にお連れしている。又体調の悪い方の受診対応もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人から音楽療法に月4回きてもらったり、敷地内の四郷食堂で行われるアクティビティーによく参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの掛かりつけ医で受診してもらっている。又相談したいときは、家族の了解を得て相談し、適切な医療が受けられるようにしている。	従来から受診のかかりつけ医を利用されている方が多く、家族がその都度同行している。尚、事業所の協力医を受診されている方も5名程ある。年一度の定期健診も同様である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内に訪問看護ステーションがあり、相談にのってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、家族や病院関係者と連絡をとりあっている。協力病院とは、関係作りができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を聞き、慣れたホームで出来るだけ暮らして頂けるように説明をおこなっている。無理になれば介護施設への紹介をおこなっている。	看護師が居ない事もあり、事業所で対応出来る状態まで支援しているが、その後は三重県医療総合センター及び小山田記念病院と連携して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修に参加して学んでいるが、実践力をつけたいとスタッフはおもっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	度々と通報訓練・非難訓練を敷地内施設と共におこなっている。地域の協力は得られていない。	事業所での火災発生想定や、隣接施設からの火災発生想定等の避難訓練及び消火訓練を、夜間想定を含めほぼ毎月実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「一人一人を尊重する」という理念をつねにもって接し、声掛けには注意をはらっている。又気がついたことがあれば話し合っている。	居室の施錠をされる方が多いので、開ける時は声かけに注意して対応している。その他いろいろな場面でも言葉かけには一人ひとりの尊重に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	過ごし方・就寝等その人に合わせた声掛けを行い自己決定できるようにしたり、寄り添って思いや希望を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アクティビティにもお誘いはするがその方の好きなように生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来ない方は整容に気をつけ、服も汚れたらすぐ換えてもらっている。おしゃれな方は化粧して楽しんでみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を聞いて買い物に行き、好き嫌いのある方はメニューを変えて対応している。食事準備・盛り付け・かたづけも一緒にしている。	ユニット毎に利用者と共に毎日食材の仕入れを行い、利用者の希望を聴きながら事業所で調理している。配膳と後片付けは殆どの方が自ら行い、楽しいひと時として職員と共に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が不足しないように、外気浴の途中に手づくりジュースを用意したり、かき氷したりと喜んでとれる工夫をしている。あまり栄養がとれない方は、栄養補助食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きに誘い、その人におおじて見守り、声掛け、一部介助をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ・尿パットを使用しないようその方に合った時間に声掛けして、トイレ誘導している。オムツの方もトイレで排便してもらえるようお腹マッサージをしている。	排泄チェック表は無いが、一人ひとりに応じた声かけをして誘導し、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分・運動不足になっていないか注意し、バナナ・プルーン・ヨーグルトをよく取り入れて野菜中心のおかずをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにしている方は毎日入浴してもらい、嫌がられる方は時間を置いたり、言葉掛けの工夫をして入ってもらっている。	基本的には午後が入浴タイムとなっており、毎日3～4名がユニット毎にシャワーを含め対応している。毎日入浴したい方には希望に合わせて随時対応し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝される方、しない方それぞれ好きなようにされている。夜も時間を決めて眠る方、眠くなったら休む方とそれぞれである。気持ち良く眠れるように個々に応じてエアコンを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出された薬表を個人ファイルに綴じいつでも見れるようにし、変更時は業務日誌、スタッフノートに書き、皆が把握できるようにしている。又変更時には様子の変化にも注意をはらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、買い物、炊事、花の水やり等個々に合った役割をもっている。又縫い物、トランプ、坊主めくり、散歩等一人一人に合った楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に沢山でかけている。家族の協力を得て近くの丘陵公園に遠足に行ったりしている。	家族と共に車で近くの公園に出かける機会もあるが、日常的には近くを散歩する事が多く、地域の方と交流して楽しい時間としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はしておらず、本人が自分に応じた額をもたれている。買い物では好きな物を自分でお金を払ってかわれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があればしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日利用者と掃除をして快適に過ごせるように支援している。又季節に応じた作品を利用者と作り、飾って季節感を出すようにしている。	食堂兼居間とは別にくつろげる場所がユニット毎に設けられており、利用者同士や職員との話し合いの場所として有効活用されている。廊下や食堂兼居間は利用者と共に随時掃除され、快適に過ごせる様になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	アクティビティールームがあり、そこでは皆とは違ったテレビを観たい方や3・4人で話に花を咲かせている姿がみられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望で家具や電化製品等何でも持ち込めるようになっている。今まで使われていた物を持ってきてもらい安心して過ごせるようにしている。	それぞれの居室は、利用者毎の意志に応じた家具、テレビ等が持ち込まれたり、特に家具を持ち込まずスッキリとした居室にしたり、利用者の意向に応じた対応となっている。ベッド、クローゼット、洗面台が基本の設備となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂はわかりやすいように大きく表示している。入浴時間は、のれんをかけてわかりやすくしている。		